

この時期の発達過程

長い距離も歩けるようになってきて、転ぶ事が少なくなってきます。歩く事はやはり運動のベースですので、近くの場所なら出来るだけベビーカーや自転車は使わずにたくさん歩くことをさせてあげたいですね。追いかけっこをしたり、ヨーイドン！で走って遊ぶなども楽しめます。天気の良い日は出来るだけ毎日お外遊びをさせてあげましょう。また、「早歩き」「遅歩き」など、速さの調整が出来たり、手を「強く叩く」「弱く叩く」などの力加減の調整も出来るようになっていくので、音やリズムに合わせて身体をコントロールしながら動くようなリズムや手遊びなども楽しめるようになります。

指先の動きもますます巧みになっていくので、指先を使う遊びもたくさんやらせてあげましょう。粘土をちぎったりこねたりして遊んだり、紐通しや型はめ、簡単なパズルなども楽しめます。子どもサイズの机と椅子を用意してやらせてあげると視線も近くなり、集中してくれます。

また、はさみに興味を持ち出すお子さんもいらっしゃるかもしれません。ハサミは子どもが持てるサイズのもの。紙は、画用紙くらいの厚さで幅1センチほどの短冊などを用意してあげると子どもが切るという目的を達成しやすいのでおすすめです。自分で紙を持ちながらうまく切れない場合は、大人が紙の両端をピンと張った状態で持っていてあげると切りやすいです。（※ハサミを使う時は目を離さないように注意してください。）

洗濯バサミで厚紙などをはさんで留める活動や、穴あけパンチ(子どもサイズの穴一つ穴がおすすめ)で紙に穴をあけるなどの活動も、親指、人差し指、中指に力を入れてはさむ動きの練習になります。これらの動きはお箸を持ったり鉛筆を持つ力にも繋がっていきますので、お子さんの興味に合わせて取り入れていくのもおすすめです。

この時期のお悩み

- ・いつものお散歩コースと違う
- ・いつも集まる人たちと顔ぶれが違う
- ・いつもと違う席に座らされた
- ・いつもとやり方や順番が違う

そんな、「いつもと同じ」という事が乱されると、泣いて怒ってしまう。そんなお悩みが多いのもこの時期ならではかもしれません。これは秩序の敏感期と言われ、子どもが場所や順番、所有など「いつもと同じ」という事に強いこだわりを示す時期。少しでもいつもと違うパターンだと泣いて怒るので、大人からみたら「こだわりの強い子ね」「わがまま」と捉えてしまいがちです。しかし、モンテッソーリ教育の創始者のマリア・モンテッソーリも子どものこの秩序について「魚にとっての水槽」「家にとっての土地」と表現していますが、子どもからすると「いつもと同じ」という事はそのくらい重要なもので、それは子どもが生まれてきたこの世界に適応していこうとするための手がかりとなり、鍵となるものです。

「この場所に行ったらこれをするんだ」「こういう順番でやるものなんだ」といったように、「これはこういうものなんだ」という秩序が形成されていくことで、子どもは安心して自分が置かれた環境に適応していく事が出来ます。とは言え、いつもお子さんに合わせて「いつも通り」を保たなければならないのは無理な場面もたくさんありますよね。しかし、大人がこの「秩序の敏感期がある」という事を知っているだけでもお子さんを見る目が変わり、気持ちが楽になれそうです。

「いつもと同じ」が乱されて泣いて怒っているお子さんには「いつもと同じじゃないから気持ち悪かったね」そんな風に共感したり、出来るだけいつもと同じパターンを崩さないように配慮してあげるだけでも違ってきますよ。

井上エリ

子どもの心の根っこを育むcocorone主催。アドラー心理学とモンテッソーリ教育を活かした子育て講座をオンラインで開催中。また、自身の保育士経験も活かしながら保育士向けの研修も行っている。アドラー勇気づけ講師、モンテッソーリ教師、8歳と1歳の女の子と男の子のママ。インスタグラム、ブログも更新中。



STAGE 12
(2歳2か月～
2歳4か月)



保育園がつくる
子育てサブスクリプション

パッケージ紹介

1

スティックトイ・玉遊び (ハバ社)

本体を縦に持つと、玉は上から下へ……。本体を横に持つと、玉は右へ左へ……。でもよ〜く見ると、本体には表面と裏面が有り、しかも表裏を分けている板には4つの穴が開いていて、玉は表と裏を行ったり来たりできるのです。それが分かると目的が……。『全部の玉がなくなるように!』と口をとがらせて集中することも。大人は大玉を穴の枠の色に合わせたくもなってきた、「ちょっとママにも貸してよ」と言いたくなっちゃうかもしれませんよ(笑) ただひたすら玉の転がるシャラシャラ〜って音を楽しむだけでも、不思議と癒されちゃう魅力の持ち主です。



2

4人乗りバス (ケラー社)

この4人が乗れるバスは、子どもの手に馴染むフォルムを発売当初から守り続けているケラー社を代表する車のおもちゃです。バスの形も特徴的で、運転手さんが乗っている先頭の窓のサイズと乗客が乗る窓のサイズは異なっており、運転手さんの窓のサイズは少し大きくなっており。最初は、うまくつまみ出して人形を取ることは、難しいかもしれませんが、徐々にうまくなっていき、指送りをするようになります。少し周りの様子がわかり始める頃には、バス停のように乗客を待たせてみたり「出発しま〜す!」なんて運転手さんになりきりながら楽しく遊んでくれるおもちゃです。



3

ノブ付きパズル野菜 (M・リチャード社)

子どもたちにとって身近な食べものが描かれた木製パズル。最初は手に持って食べるまねをしてみたり、「これなあに?」と名前を当てっこしてみたり。

パーツの下に描かれた“食卓に並んだときの姿”を見ながら、「同じのどれかな?」と探してみるのもいいですね。

指先の感覚が発達してきたら、ノブをつまんで持ち上げて、形を合わせてパズルあそび。はじめはうまくはめられなくても、ぴったりはめられたときの達成感「できた!」の喜びでいっぱいです。



4

レジスター (ドライブッター社)

大人の真似が大好きな2才。お店屋さんごっこは大人の仕事へのあこがれであり、社会性につながっていく大切な遊びです。自然な木目が美しいレジスターはお部屋の中でステキな存在感を放つので、目に入ると思わず「いらっしやいませ」と働きたくなるレベルです。「ドライアイスはご必要ですか?」とか、「エコバッグお持ちでしょうか?」など、実際にお店で聞くセリフを大人が話してあげると、子どもの目が輝きますよ〜。

*レジスターにお金は付属していません。同じパッケージのおもちゃ「ソート&カウントカップ」を代用してください。ノブ付きパズル野菜をお買い物の商品に見立てお楽しみくださるのもお勧めです。



5

ソート&カウントカップ (プラントイ社)

このシンプルなおもちゃは、分けたり、数えたり、並べたり、幅広い学習につながる便利グッズ的存在です。2才は「同じ」を見つけるのも大好きな年齢です。



6

カエルさんジャンプ (バイキングトイズ社)

かえるさんを指でうまくはじいて、ジャンプさせられるかな? 2才のつたない指先で、なんどもなんどもチャレンジする姿が……。上手く飛べなかった時には、「あら、ずっこけた」「惜しいねえ〜」と明るく応援してあげてくださいね。単純だからこそ親子ではまってしまいう遊びです。4色のカエルさんが2匹ずつ、合計8匹入っています。色分けして並べたり、集めたりも大好き。誰が一番早く手持ちのかえるさんをバケツに入れられるか対戦したり、ゴールを決めてみんなで競争したり、さまざまな遊び方が楽しめます。



絵本

しろくまちゃんのほっとけーき

お手伝いをしながらほっとけーきを作る喜び。ほっとけーきが完成していく様子を見る喜び。そして、「おいしい」をおともだちと共有する喜び。

鮮やかな「オレンジ」を基調とした色で描かれた数々の名場面は、子どもたちの心に強烈に印象に残っていき、大人になってもそのワクワクの気持ちが色褪せることはありません。

「子どもがはじめて出会う絵本」「子どもがはじめて出会うおともだち」、そんな絵本をつくりたいと大人たちが真剣に考えながらつくった「こぐまちゃん」シリーズ。その願いの通り、今もずっとこぐまちゃんは子どもたちのおともだちです。



絵本

ぞうくんのおさんぽ

ぞうくんはさんぽに出かけました。かばくんに出会って、さんぽに誘うとかばくくんはぞうくんの背中に乗りました。わにくんに出会って、さんぽに誘うと、わにくんはかばくんの背中に乗りました。最後にかめくんに出会って、かめくんがわにくんの背中に乗ると、ぞうくんが重さにたえられなくて、池にみんな落ちてしまいました。単純にデザインされた動物たちのユーモラスなやりとりが、愉快的な散歩に子どもたちを連れていってくれます。



うた

わらべうた

YouTube このトイChで紹介しております。QRコードからご確認ください。

